

もっと知りたいと思うように



遠藤 敦美

活動を重ねるごとに前橋のことを知り、さらに知りたいという思いにつながりました。自分が活動することで、周りの人が広報を読むようになったり、市政に興味を持ってくれたりしたことがうれしかったです。

自分の言葉で表現できました



奥田 柳太郎

活動中は常に適度な緊張感がありました。その上で、自分の言葉で表現することにやりがいを感じ、大きな充実感が得られました。私自身メンバーでありながら一読者としても、いつも広報の発行が楽しみでした。

前橋に詳しくなりました



桑原 利光

活動中の編集会議では、メンバーの知識の深さに驚かされる部分が多々ありました。企画提案は難しいと感じることがありましたが、「広報読んでいるよ」という声をたくさんもらい、活動の励みになりました。

協力して記事作成できました



船戸 春香

広報を手にした人が、改めて前橋の魅力を感じることができるよう記事を目指して活動に参加しました。読んでいてわくわくするような記事は、一人では決して作れません。意見を出し合い、より良いものを作ろうと協力できました。

活動が大きな経験に



田端 芳紀

自分の意見を伝えることや同世代の人の考えを知ることは大きな経験になりました。普通に生活していただけでは知れなかったことをたくさん学びました。広報が、若者に限らず多くの人の情報ツールとなれば良いと感じます。



市民が作る
市民編集
のページ
Vol.125

ワカモノ 記者

2年間の活動を終えて

平成28年度からスタートした、市民編集委員「ワカモノ記者」。第一期のメンバーが2年間の任期を終えます。若者ならではの目線で、広報まえばしに新たな風を吹かせてくれたワカモノ記者。今回は、活動を終えての感想を紹介します。

☎ 市政発信課 ☎ 027-898-6642



来む! ワカモノ記者

第二期ワカモノ記者メンバーを募集。
広報まえばしで、市内のさまざまなモノ・コトを
若者目線で取材してみませんか。

詳しくは
こちらから!



ワカモノ記者の
取材の様子など
を公開中!



Instagram



フェイスブック

メンバーは取材や月1回程度の編集会議に参加し、広報紙の編集に携わったり、SNSでの情報発信をしたりします。事前に養成講座も開催。文章の書き方や写真撮影などの基本を学びます。また、取材には職員が同行。編集などの経験がなくても安心です。活動頻度や内容など、詳しくは本市ホームページをご覧ください。
任期 平成32(2020)年3月31日(火)まで
対象 市内在住・在勤・在学の18歳〜29歳で、4月14日(土)の会議に参加できる人、10人程度(選考)
その他 無報酬のボランティア
申し込み 3月15日(木)までに郵送で。住所・氏名・年齢(学生の場合は学校名と学年)・電話番号・メールアドレスと応募の動機(400字以内)を記入し、市役所市政発信課へ。または ☎ shiseihasshin@city.maebashi.gunma.jp ☎

前橋がもっと好きに



馬持 沙織

普段生活していただけでは気付かなかった新たな一面を学ぶことが多々あり、毎回の取材はとても刺激的でした。また、取材した皆さんから前橋に対する熱い思いを感じ、郷土愛の強いまちだということを実感しています。そして何より、活動をおして私自身ももっと前橋が好きになりました。

取材で知った前橋の姿



川田 和樹

活動をおして知らなかった前橋に出合えました。広瀬川の取材では、周りの景観が、変化を受け入れつつ多くの人の思いで守られていることを知りました。これを知れたのは取材をしたからです。ただ、取材にはエネルギーが必要。しかしそれによって得られる醍醐味は何物にも変えられません。

新たな発見がありました



品川 亜衣

初めての取材では、話を聞き、メモを取るのに精一杯で、自分の力で取材から記事作成まで行うことに難しさを感じました。しかし、だんだんと落ち着いて臨めるようになりました。取材をした私自身が市の魅力に新たに気付くこともたくさんあり、以前より郷土愛が一層強くなりました。

まちの見方が変わりました



渡辺 楓

ワカモノ記者として活動する中で、前橋市の魅力、またその魅力を支える人たちの思いに触れてきました。取材をおして何気なく通り過ぎていたまちの見方が変わりました。前橋市民として自信を持ってここに住むことができます。これからも前橋の新しい魅力を発見していきたいです。